

ポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)第21回閣僚会合

岸田外務大臣メッセージ

(2016年10月31日、於:ブラジリア)

セーハ・ブラジル連邦共和国外務大臣閣下,

コエーリョ・東ティモール民主共和国外務協力大臣閣下,

ムラルジ・ポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)事務総長閣下,

CPLP加盟国閣僚の方々,

並びに御列席の皆様,

CPLP閣僚会合の開催を心よりお祝い申し上げます。日本は、アフリカ、中南米及びアジアにまたがりグローバルに影響力を有するCPLPとの関係を重視しています。我が国としては、CPLPとの協力の強化により、責任ある世界のリーダーの一員として、国際社会の平和と繁栄のため一層積極的な役割を担っていく決意です。

日本は、2014年7月のディリにおける前回の首脳会合においてオブザーバー加盟が承認されて以来、CPLPとの協力関係の推進に努めてまいりました。昨年6月のCPLPエネルギー大臣会合に駐ポルトガル大使が、昨年7月のディリにおける閣僚会合に中根外務大臣政務官が出席しました。昨年日本において「CPLP推進議員連盟」が発足し、本年8月、同議連会長である河村建夫元官房長官がCPLP事務局を訪問してムラルジ事務総長に面会するなど、政治レベルにおいてもCPLPとの協力に関心が高まっていることは大変喜ばしいことです。

また、CPLPビジネス連盟とも関係を構築し、日本企業によるCPLP諸国へのビジネス展開を支

援していく所存です。

さらに学術分野においても、本年3月、星野俊矢大阪大学副学長が、CPLP本部にて日本の戦後復興とCPLP諸国との協力について講演を行う等、交流が進んでいることも意義深いことです。日本においてポルトガル語教育を行っている上智大学及び東京外国語大学からは、CPLPの下部組織である「国際ポルトガル語院」との協力関係の更なる強化への関心が表明されています。本年は東京外国語大学において、日本で初めてポルトガル語教育が開始されて100周年を迎える記念すべき年であり、引き続き日本としてもポルトガル語の普及に関し、CPLPとの協力を推進していく所存です。

議長、

この場を借りて、日本がCPLP諸国と共同して取り組むべき分野として、国連安全保障理事会改革及びアフリカ開発の2点についてお話しします。

(安保理改革)

国連創設から70年以上が経った今、ますます増大するグローバルな課題に対処するためには、より代表性が高く、正統性があり、かつ実効的な安保理がいまだかつてなく必要とされています。CPLP諸国からも支持された、元ポルトガル首相であるグテーレス候補が選出された今回の次期事務総長選においては、初めて総会で非公式対話が開かれるなど、安保理を含む国連の意思決定プロセスを変えることができました。安保理は変えることができ、また変わらなくてははいけません。その安保理改革の実現のためには、日本とCPLPとの連携が不可欠です。

日本とブラジルを含むG4は、改革された安保理において、常任・非常任双方でのアフリカの代表性、及び小島嶼開発途上国(SIDS)を含む中小規模の加盟国の適切かつ継続的な代表性を支持しています。

日本としては、グテーレス新事務総長とも協働しつつ、包括的な安保理改革の実現に向けて、ニューヨークにおける政府間交渉を含め、引き続きCPLP諸国と協力していきたいと考えています。

(TICADプロセス)

議長、

日本にとってアフリカは、政治面でも経済面でも重要なパートナーです。本年8月、第6回アフリカ開発会議(TICADVI)がケニアで開催されました。TICADはこれまで日本で開催されてきており、今回は初めてアフリカの地で開催されたTICADの会合となりました。アフリカ自身の描く夢を、アフリカと共に手を携えて実現する。そのために、日本は官民300億ドル規模の「アフリカの未来への投資」を約束しました。会議の成功へのCPLP諸国の多大な貢献に感謝します。

TICADの真価はしっかりとしたフォローアップにあります。日本が表明した「質の高いアフリカ」、「強靱なアフリカ」、「安定したアフリカ」に向けた取組を、CPLP諸国と協力して、着実に実施していきます。

最後になりましたが、ムラルジCPLP事務総長におかれては、4年半にわたり、CPLPの活動の先頭に立ってこられました。その御尽力に敬意を表するとともに、日本のCPLPへのオブザーバー

加盟にあたり多大な支援を頂いたことに改めて感謝申し上げます。併せて、CPLP諸国及び同事務局の御協力に感謝するとともに、CPLP諸国の発展を祈念します。御清聴ありがとうございました。

（了）